

2018年度市保連総会報告

6月10日(日)特養「都和のはな」のホールをお借りして、市保連総会を開催しました。

昨年より17の保育所の保護者会から24名の参加がありました。参加園・参加者も昨年より増えました。(委任状出席は15園)。役員・事務局8名を合わせて32名でにぎやかな総会となりました。

開会挨拶のあと、市保連事務局の藤井豊さんを講師に「保育の質について」の学習会を開催しました(2頁に概要を報告しています。京都大学の倉倉史先生の研究や講演を参考にさせていただいています)。



その後、グループに分かれて分散会を行い、学習会の感想を交流したり、バザーや総会運営、保護者同士が交流する工夫など、各園のお悩みごとにアドバイスをし合ったりしました。

最後に、総会議案を審議・採択しました。今年初めて参加された保護者から超ベテランの保護者まで参加があり、総会終了後も、食事を取りながらの交流会を行いました。

今年度の役員新体制は以下のとおりです。

会長	中村 陽介 (風の子保育園)
副会長	好川 亜希子 (洛西保育園)
	西山 頌秀 (朱一保育園)
	山根 智子 (白い鳩保育園)
事務局長	柳生 剛志 (朱い実保育園)

新任の山根智子さんの挨拶文を4ページに掲載しています。

今年度は新たに、保育制度を調査するチームの結成、保育士会など他団体との懇談などの活動を進めることになりました。

市保連総会 ミニ学習会の概要

好川 亜希子(洛西保育園)

講師:藤井 豊氏(市保連事務局)

題名:「保育の質について」

Q 質の高い保育とは？

⇒雑然とした自然の残る環境

木の味わいが残る探究心をくすぐる建物

砂遊び、木登り、水遊び、虫探しができる環境

いろいろな素材を使って自ら作り出す遊び

これらの環境が日ごろ、親子で通っている保育園で提供されているか？

Q 生活に必要な力は？

⇒身の回りのことを自分でできる力

協調性のある集団行動ができる力

人の話を聞く力

これらの力を身につける前に大切なことは「子どもたちの『心』をどう育てるか？

2つの『心』

⇒「私は私」(自信・自己肯定感を育てる)

(～がしたい／自分でやりたい／自分なりの思い／自己主張／自分への誇らしさ)

⇒「私は私たち」(信頼感・安心感を育てる)

(一緒にうれしい／褒められてうれしい／理解しあえてうれしい／役に立ててうれしい)

2つの『心』の原点を育むことが何よりも大切。均衡を保っている『心』が理想。

保育者として、保護者として、何よりも子どもの思いに寄り添い、気持ちを受け止めることが大切。ありのままの自分を他者から受け止めてもらうことで、自分の気持ちが受け止めてもらえた体験の積み重ねこそ、自信を持って自分の思いを他者へ出せる力が身につき、他者の気持ちの交流を喜べる力へとつながる。

保育士を取り巻く環境はどうか？

・受け持つクラス人数の上限がない

・保育士の配置基準を見ると、1人あたり受け持つ人数が多い

・給与も、公立保育所よりも、学校職員よりも、他の業種よりも低い

・長時間労働が多く、保育士会アンケートでも労働環境の改善を求める声が多く寄せられている。

⇒人としての基礎を学ぶ幼少期の大切な時期に関わる保育士の労働環境が果たしてよいのか？

★子どもを育てる親として、子どもと関わる保育者として、子どもたちが安心して身を委ねられる人として、安心できる場所が継続してあるために、子どもを取り巻く環境改善の保育運動が重要になる。

★保護者としての運動はどうか？

行政から見れば、利用者であり有権者である。／保護者が動くマスコミの反応がよい。

継続性や専門性は弱い。

⇒保育園や先生たちの保育運動と連携し、互いに補い合うことがとても重要。

保育、幼児教育の研究者との連携も広げる。／子どもを真ん中にした運動を展開する。

★保護者会で学びの機会を持つ★

保護者会は制度改善を求める運動の担い手である。／保護者が抱く疑問、不安などの声を集める。

保護者会どうしがつながり、一緒に行動する(=市保連)ことが大切。

「京都 幼稚園・保育園・認定こども園情報 vol.13」に市保連が掲載！

「京都 幼稚園・保育園・認定こども園情報」の最新号(8月6日発売)に市保連の活動が紹介されました。発行元は、「京都子連れパワーアップ情報」「京都イクメン図鑑」の発行など様々な子育て情報を発信している「NPO法人 子育て支援コミュニティ おふいすパワーアップ」です。代表の丸橋泰子さんが保護者会活動の大切さを発信したいと取材をしてくれました。書店やネットでも販売しています。



新副会長のご挨拶

山根智子（白い鳩保育園）

今年度から副会長をさせていただくことになった山根智子です。子どもは、4歳児と0歳児の2人です。私と市保連の出会いは、保育料の算出が所得税から市民税になった際に、集団での意義申し立てに参加したことです。その後の集まりを通して、各園の実費負担の費目や金額の違いや、それに伴う保育内容の違いに驚きました。そのことを出発点にして、「隠れ保育料」問題について、市保連のメンバーと考えてきました。

市保連がなかったら、私の感じた疑問は単なる個人的な愚痴にとどまっていたと思いますが、市保連のつながりを通じて、京都市との懇談や、シンポジウムやブックレットなどの社会的発信をすることができました。市保連の役割は、一人一人の保護者や子育て家庭が困っていること、疑問に感じていることを、皆で共有して、社会的な解決を目指すことだと実感しています。そうすることが、わが子を含むすべての子どもたちの豊かな育ちにつながるのだと思います。

個人的には、会議の後の飲み会なども楽しみです。大人になって友だちを作るのは難しいとよく言われますが、いろいろな肩書を下して「保護者」としてつながれる場としても、居心地の良い市保連をつくっていきたいです。

発行責任者
会長 中村 陽介（風の子保育園）